

校種・教科名	家庭	家庭基礎（2年）	単位数	2単位
学習到達目標				
1. 人の一生と家族・福祉・衣食住・消費生活などについて学ぶ中で、基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 2. 生活のなかで課題を見出し、それを解決するための手だてを考えるとともに、次のステップの実践へとつなげていく。 3. 自分らしい生活観・価値観を創造していくなかで、自分の個性にあったライフスタイルを築いていく。 4. 多様化する現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育成する。				

学期	学習内容	時数	学習のねらい
一 学 期	オリエンテーション	1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭基礎を学ぶ意義、内容をおさえさせる。 各ライフステージごとの発達課題を理解し、青年期においては4つの自立が課題となることを知る。 男女が共に家庭生活と職業労働を両立させるためには、どのように協力すればよいか、その課題について考える。 男女共同参画に向けての各種法令について理解を深める。 家庭の機能および家族や家庭生活のあり方が多様化していることを理解する。 自身の結婚のあり方や少子化問題について考える。 家族に関する法律について理解し、現行民法と改正案を比較しながら問題点を考える。 食事の役割を認識し、食生活が健康に影響することを学ぶ。 食生活に関する日本人の課題について考える。 必要な栄養素とその働きについて理解する。 食中毒や食品添加物、食品表示などについて理解を深め、安全で衛生的な食生活について考える。 自身や家族の食事摂取基準について調べ、バランスの良い献立づくりができるようにする。 調理実習を通して、調理の基本的技術を習得する。 ホームプロジェクトと学校家庭クラブの意義・進め方を知る。授業で得た知識・技術を駆使して、問題解決のための実践力を身につける。
	1章 これからの生き方と家族	4	
	1節 青年期を生きる	(2)	
	2節 家族・家庭と社会との かかわり	(2)	
	2章 食べる	17	
二 学 期	1節 人の一生と食事	(2)	
	2節 栄養と食品	(4)	
	2節 食生活の安全のために	(2)	
	3節 食生活をデザインする	(9)	
	10章 生活の充実・向上をめざして ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動	2	
二 学 期	2章 装う	15	<ul style="list-style-type: none"> 被服の機能と時代や気候と衣服の関係について学ぶ。 被服材料の種類や特徴について学び、品質表示をもとに被服を選択し、自分らしさを表現できるようになる。 品質に応じた被服の手入れと保管について考える。 簡単な被服実習を通して基本的な裁縫技術を習得する。 環境に配慮した衣生活について考える。 日本や世界の特徴的な住まいを比較し、地域の気候や風土に応じてつくられたことを理解する。 時代や家族構成、家族の生活行為に合った住空間の広さや動線などについて理解し、望ましい間取りを考える。 インテリアの構成要素について理解し、自分のライフスタイルにあった部屋をデザインする。 健康と住環境の関わりについて理解し、衛生的で安心して住めるより良い住環境について考える。 災害や家庭内事故防止に備えた安全対策について考える。 住まいのメンテナンスや法制度について理解を深め、住生活の課題知り、長く住み続けるための工夫について考える。 家庭経済と国民経済が相互に関わりあっていることを理解する。 消費者被害の事例を通して消費者被害の状況を理解し、問題商法にあわないための注意、予防法を考える。
	1節 人の一生と被服	(5)	
	2節 被服材料と管理	(10)	
	3章 住まう	6	
	1節 人の一生と住まい	(3)	
	2節 住生活の計画と選択	(3)	
	8章 経済生活を営む	8	
1節 私たちの暮らしと経済	(3)		
2節 消費者問題を考える	(3)		

	3節 持続可能な社会をめざして	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 販売方法や支払い方法が多様であることを知り、購入時に適切な判断が必要なことを理解する。 環境にやさしい消費行動が求められることを理解し、周囲と協力しながら実践する姿勢を身につける。
三 学 期	2章 次世代をはぐくむ	8	<ul style="list-style-type: none"> 母体と子どもの健康には、家族と男女の協力、またそれを支える社会のしくみが必要であることを知る。 子どもは遊びをとおして心身の発達や健康の保持をしていることを理解する。 保育の第一義的な責任は親にあることを認識するとともに、子どもの人間形成や健康・安全維持にかかわる親の役割について理解する。 集団保育の意義や子どもの権利と福祉についての理解をはかる。 わが国の高齢化の現状について理解するとともに、将来の高齢社会のあり方を考えていく。 エイジフリー社会について考え、高齢者の社会参加にはどのような地域活動や生きがい事業がふさわしいのか考える。 高齢者体験などをとおして高齢者の心身状態への理解を深める。 高齢者世帯の生活状況を把握し、心身両面からの支援が必要なことを知る。 介護保険制度のねらいや運用方法について理解し、今後の課題についても考える。 高齢者の自立を支援するうえでのコミュニケーションや介助の基本的な知識と技術を学ぶ。 車いす体験などをとおして、高齢者に対する心構え、介助される側の立場を理解する 家庭生活と社会保障制度の関わりと必要性について知る。 地域福祉、ボランティア活動、NPO活動について考える。 2学年で学習した内容を振り返る。
	1節 子どもの発達	(4)	
	2節 親の役割	(2)	
	3節 子育て支援と福祉	(2)	
	3章 充実した生涯へ	6	
1節 高齢期を生きる	(3)		
2節 高齢社会を支え合う	(3)		
4章 とともに生きる	2		
まとめ	2		

使用教材等

教科書・・・第一学習社「高等学校 家庭基礎」
副読本・・・第一学習社「最新生活ハンドブック 資料&成分表」

各学期の テスト・ 課題・提出物	一 学 期	テスト (60%)
		課題・提出物・授業(実習)態度 (40%)
	二 学 期	テスト (60%)
		課題・提出物・授業(実習)態度 (40%)
	三 学 期	テスト (70%)
		課題・提出物・授業(実習)態度 (30%)

留意事項

- ・ 実習に関する点数は比重を大きくする。
- ・ 家族に関する内容においては個人的な事に深入りしない。
- ・ 夏休みの課題として、ホームプロジェクトへの取り組みをさせる。